

学校・家庭・地域で使える
家庭教育支援プログラム

子育て仲間と楽しく交流！

おおいた
親の学び
プログラム集 | 3

中学生・高校生の保護者用



大分県教育委員会

はじめに

近年の社会情勢の変化を受け、核家族化や地域の人間関係の希薄化等により、子育て環境は大きく変化してきています。保護者の中には悩みや不安を抱えている場合もあり、家庭における子育てを社会全体で支援する取組や連携・協働が必要とされています。教育基本法第10条（家庭教育）は、父母その他の保護者は、子どもの教育について第一義的責任を有するものであることを明記しています。国及び地方公共団体は家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他家庭教育を支援する必要な施策を講ずるよう求めることが提示されています。

大分県では、平成25年2月の大分県社会教育委員会議の「家庭教育支援のあり方について」答申により、家庭教育支援のための具体的な方策の一つとして、子どもの発達段階に応じた「子育て」「親育ち」のためのプログラム開発と学習機会の提供として、家庭教育支援の取組を推進してきました。

平成26年度から、「おおいた親の学びプログラム集1」（就学前後ならびに小学校低学年の保護者用）「おおいた親の学びプログラム集2」（小学校中学年・高学年の保護者用）を作成し、全県下の幼稚園、小学校・中学校、県立学校やPTA団体等の関係団体などに配布しました。そして、地域で支援をすすめる家庭教育支援員等の研修会でプログラム集の活用研修を実施するとともに、PTAでの研修会や学校の保護者会、懇談会、公民館の講座、家庭教育学級等、様々な機会において活用しています。

平成28年度では、中学生・高校生の保護者を想定した「おおいた親の学びプログラム集3」を作成しました。保護者が抱えそうな悩みやそれまでの子育てについて振り返る内容のワークを取り入れた参加型学習で使える7テーマのプログラムとなっています。これまでの「おおいた『親学のすすめ』読本」（平成20年3月作成）、「おおいた親の学びプログラム集1、2」（平成26年度、平成27年度作成）と本誌を活用することで、地域での子育てのネットワークや学校・家庭・地域のつながりを築くきっかけになっていくものと考えています。時間が足りなければプログラムの一部だけを実施していただいてもよいですし、参加者の特性を考えてアレンジして活用することもできます。さらに回数を加えてプログラムを発展させていただくことも可能です。

このプログラム集が様々な機会でも活用され、家庭教育支援の一つとして役立つことが出来れば幸いです。

平成29年3月

平成28年度学校・家庭・地域で使える家庭教育支援プログラム検討委員会

委員長 岡田正彦

CONTENTS

- はじめに

【おおいた親の学びプログラム集3】について

●目次、内容、テーマの概要	01
●使い方①（プログラムの使い方、ファシリテート）	02
●使い方②（ワークシート、進め方・展開）	02
●使い方③（アイスブレイク）	04

おおいた親の学びプログラムワークシート 05

《新たな生活、環境、学校との関わり》

① 中学生の生活は？～環境の変化～	06
② 高校生活のはてな？～新しい生活・知りたいこと～	08
③ 子どものサポート～進路選択とどう関わりますか？～	10

《人との関わり（コミュニケーション・関わりなど）》

④ ネット社会とケータイ・スマホについて～情報モラル・ネット社会～	12
⑤ 今どきの子ども～子育ての ^{ふえきりゅうこう} 不易流行～	14
⑥ 子どもの悩み・不安に対して～このようなときどうしますか？～	16

《保護者:自分自身のふり返し（そして未来へ）》

⑦ 子育て〇年、親育ち〇年。～未来のわが子へ～	18
-------------------------	----

おおいた親の学びプログラムの進め方 21

① 中学生の生活は？～環境の変化～	22
② 高校生活のはてな？～新しい生活・知りたいこと～	24
③ 子どものサポート～進路選択とどう関わりますか？～	26
④ ネット社会とケータイ・スマホについて～情報モラル・ネット社会～	28
⑤ 今どきの子ども～子育ての ^{ふえきりゅうこう} 不易流行～	30
⑥ 子どもの悩み・不安に対して～このようなときどうしますか？～	32
⑦ 子育て〇年、親育ち〇年。～未来のわが子へ～	34

資料編（県からのお知らせ、情報等）	37
-------------------	----

おおいた 親の学びプログラム集 3 内容・概要

中学生・高校生の保護者用

新たな生活、環境、学校との関わり

① 「中学生の生活は？～環境の変化～」 (生活環境:中学生生活)

中学校では生活環境の変化に伴い、人間関係や勉強の壁にぶつかる「中1ギャップ」や日常生活での悩みや不安を抱える問題に直面することもあります。子どもの生活環境に関わる悩みや気になることを話し合いながら、保護者としてどう向き合い、どう支えたらよいかを考えてみましょう。

② 「高校生活のはてな？～新しい生活・知りたいこと～」 (生活環境:高校生活)

高校生になると、学習内容も専門的になり、友だち関係や部活動など新しい世界が広がります。また、行動範囲も広がり、時間やお金の使い方も中学生の頃より自己管理が必要になってきます。将来、社会に出て自立した生活を送るために、高校での3年間を子どもたちにどのように過ごしてほしいか考えてみましょう。

③ 「子どものサポート～進路選択とどう関わりますか？～」 (進路・キャリア教育)

子どもが進路を選択するとき、保護者としてどう関わればよいのか？どんな支え方やアドバイスができるのか？だれしも悩む問題だと思います。同じ年頃の子どもをもつ保護者同士で話し合ってみましょう。

人との関わり (コミュニケーション・関わりなど)

④ 「ネット社会とケータイ・スマホについて」～情報モラル・ネット社会～

ケータイ・スマホは便利な面もありますが、使い方次第では様々なトラブルや危険性も持ち合わせています。子どもがトラブルで悩んだり不安を抱えたりしているときの保護者の対応や、「我が家のルール」について考えてみましょう。

⑤ 「今どきの子ども～子育ての不易流行(ふえきりゅうこう)～」 (子どもとの関わり①)

子どもが成長するとなかなか本音で話すことが難しくなることがあります。次第に子どもの変化に保護者は戸惑うことも多くなってきます。子どもの心の成長や変化について話し合い、子どもの心に寄り添う言葉かけや支え方を考えてみましょう。

⑥ 「子どもの悩み・不安に対して～このようなときどうしますか？～」 (子どもとの関わり②)

子どもが抱えている悩みやトラブルについて、どう対応してよいか迷うことがあります。子どもがトラブルで悩んだり不安を抱えたりしているときに保護者としての対応を話し合いながら、子どもの心に寄り添い、支える方法について考えてみましょう。

保護者:自分自身の振り返り (そして未来へ)

⑦ 「子育て〇年、親育ち〇年。～未来のわが子へ～」 (子育ての振り返り)

これまでの子育てを振り返るとさまざまなことがあったと思います。心配したり、うれしかったり…。子育て当初の気持ちやこれまでの子育てを振り返り、これからのことを考えながら、新たな気持ちで前向きに子育てに取り組む気持ちを持ってみませんか。

参考

おおいた親の学びプログラムワークシート……………	05
おおいた親の学びプログラムの進め方……………	21
資料編 (県からのお知らせ、情報等) ……………	37

おおいた 親の学びプログラム集 3 の使い方

中学生・高校生の保護者用

1 「おおいた親の学びプログラム集」とは？

参加者同士が子どもの成長や最近の生活をふり返り、話し合いをしながら主体的に学ぶ、参加型の学習プログラムをまとめた冊子です。

学習プログラムは7項目のテーマを設定し、それぞれに「プログラムワークシート」「プログラムの進め方」を掲載しています。このプログラムを活用した講座・研修を行うことにより、親(保護者)としてのあり方や子どもへの関わり方について、自然に気づくことができるようになっています。この気づきを、これからの子育ての中で活かし、よりよい子育てを行っていききっかけづくりに役立つように、学習プログラムは構成されています。

また、関連資料として、子育てに関する相談窓口などの情報も掲載していますので、併せてご利用ください。

2 プログラム活用のポイント

- (1) 参加型学習とは集まり、楽しく学びあうためのプログラムです。4~5人程度の小グループをつくり、話し合いをしながら学習を進めます。
- (2) ワークシートをコピーして参加者に配り、ファシリテーターが「プログラムの進め方」を参考に進行することで、参加型学習を実施することができます。
- (3) PTAの学級懇談会、家庭教育学級、公民館の子育て講座などで活用しやすいように、「プログラムの進め方」には進行順、時間配分、ファシリテーターが話す言葉などを記載しています。
- (4) 中学生・高校生の子どもを持つ保護者の皆さんを主な対象者として作成していますが、そのほかの方でも、必要に応じてご利用ください。
- (5) 各プログラムの所要時間は45分間になっています。プログラムを実施する時間が短い場合は、「プログラムの進め方」を参考にしながら、時間の調整を行って進めてください。
- (6) アイスブレイクは、参加者が知り合いであるかどうかなど時間と参加者の状況によって省略したり、別のアイスブレイクを行ったりしてもよいです。
- (7) 使用についての事前の連絡等は必要ありません。自由にコピーしてご利用ください。

3 「ワークシート」「進め方」の使い方

ワークシート

自分の思いや考えを書き込みましょう。

広報紙などに転載してもよいです。

テーマに関連した資料です。



短くてもよいので気づいたことを書いておきましょう。

学習のふり返りができます。

エッセイを読んで感想を話し合うのもOK!

進め方

ファシリテート、進行する人の、進め方の例がのっています。

進め方のポイントやヒントを参考に。



進め方は、アレンジして使えます。

資料や学習のふり返りのタイミングを考えてみましょう

4 用語について

ワークショップとは？

参加者一人ひとりが意見やアイデアを出し合いながら話し合いを行い、それを通した学び合いをすること。創造と学習を生み出す場のこと（元々の意味は「工房」「仕事場」「作業場」など）。

ファシリテーターとは？

ワークショップの進行役。参加者の考えや力を引き出しながらプログラムを促進していく人。

参加型学習とは？

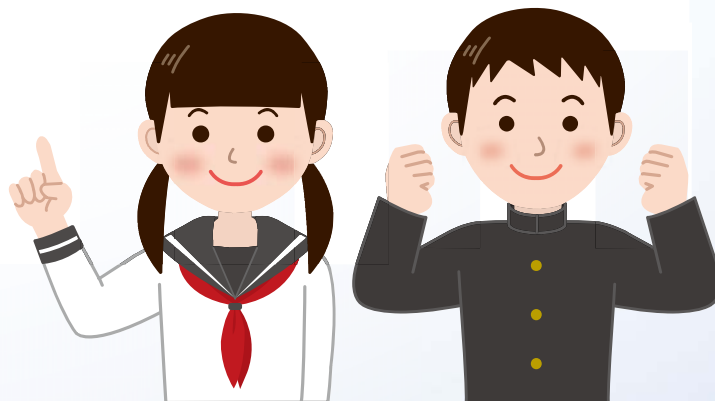
講師が一方向的に知識を与えるのではなく、学習者がお互いに話し合うなどの活動に参加することを促す学習のこと。

アイスブレイクとは？

研修会や会議などを始める時の、参加者の緊張や不安をときほぐすための活動。心と頭をほぐすウォーミングアップ。

ふりかえりとは？

プログラムの活動や話し合いをとおして感じたことや気づいたことを、自分自身で確かめること。また、プログラムの中で気づきとして得たことを、次の活動につなげるために書いたり発表したりすること。



5 アイスブレイクについて

本題のテーマについて話し合うときのウォーミングアップです。参加者同士が、かんたんなゲームや自己紹介をすることで、距離感がグッと近づきます。子どもや地域、身近な話題など気軽に話しやすい話題やだれでもやりやすいゲームなどを取り入れてみましょう。

プログラムの中で使用するアイスブレイク集

【グループ分けに使えるアイスブレイク】

1 バースデーライン（バースデーサークル）

- ① 合図とともに、誕生日順に並ぶ。
 - ② 1分経ったら合図して、並び終えるように伝える。
 - ③ 輪になって、全員が名前と誕生日を言う。
 - ④ 並んだ順番で4～5人ずつに分かれて、小グループを作る。
- ※ 時間があるときは、無言で手足を使って誕生日を教え合い、並んでみるのもよい。

2 瞬間グループ分け

- ① 全員が集まったところで、「今一番行きたいところはどこ?」「好きな季節が同じ人同士」「好きな色が同じ人同士」など、テーマを示してグループになる。
- ② グループの人数をみて、適当な人数のグループに全体が分かれるように移動してもらう。

3 拍手でグループ

- ① ファシリテーターが拍手した数のグループに素早くなる。
- ② グループができたらその場に座る。
- ③ ①～②を繰り返す。（最後に集まった人たちとグループになり、その後の話し合いを行う）

4 ほめほめじゃんけん

- ① 近くの人同士で二人組をつくる。
- ② じゃんけんして、勝った人が相手のいいところを見つけてほめる。
- ③ ②を繰り返して、お互いにほめ合う。

【グループ活動・自己紹介に使えるアイスブレイク】

5 □たす2

- ① □（漢字の部首「くち」「くちへん」「くにがまえ」等）に2画書き加えて、漢字をつくる。（例：田、白、司、兄、右など）
 - ② グループに紙を一枚配り、全員で考えてできるだけ多く漢字を書く。
 - ③ 3分経ったらグループごとにできた漢字を確認して発表する。漢字を一番多く書いたグループに、全員で拍手する。
- ※ 漢字を考える時間は調整してもよい（長くする場合は最大5分間程度とする）。

6 「あ」のつくことば

- ① 「あ」で始まる2文字（2音）の言葉を考える。
 - ② グループに紙を1枚配り、それぞれが考えた言葉を書く。
 - ③ 1分経ったら合図して、グループごとにできた言葉を確認して発表する。
- ※ 最初の一文字を「あ」以外に変えてもよいし、「名詞」「動詞」「外来語」と指定してもよい。

7 ひとこと自己紹介

- ① 自分の名前のほかに自己紹介するテーマを与える。
- ② 「子どものころ好きだったアニメ」、「自分のマイブーム」、「子どものころに憧れていた職業」など、与えられたテーマについて話す内容を考え、自己紹介の中で必ず披露する。

8 呼ばれたい名前

- ① 自分が呼ばれたい名前（ニックネーム、好きな名前など）を考えて紙に書く。
- ② 紙を持って（名札やシールであればつけて）、その名前を考えた由来から自己紹介する。